

各 位

上場会社名 株式会社 デジタルデザイン
代表者名 代表取締役社長 寺井 和彦
(JASDAQ 市場 銘柄コード:4764)
問い合わせ先 取締役 経営管理グループ長 佐藤 真由美
TEL:06-6363-2322(代)

平成 24 年1月期第2四半期連結業績と前年同期実績との差異に関するお知らせ

平成 24 年1月期第2四半期連結累計期間(平成 23 年2月1日～平成 23 年7月31日)の当社連結業績につきまして、前年同期(平成 22 年2月1日～平成 22 年7月31日)の実績値に対して、下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 24 年1月期第2四半期連結業績(平成 23 年2月1日～平成 23 年7月31日)の連結業績と前年同期実績値との差異

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期 純利益	1株当たり 四半期純利益
平成 23 年1月期第2四半期(前年同期)(A)	82	△96	△97	△114	△4,260.44
平成 24 年1月期第2四半期(B)	67	△35	△35	△45	△1,696.72
増減額(B-A)	△15	60	61	68	—
増減率	△18.4%	—	—	—	—

2. 差異の理由

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響を受け、経済活動の停滞や電力不足等の懸念により、先行きの不透明感が高まっており、雇用情勢、所得環境の悪化も懸念されるなかで個人消費は低迷を続けております。

情報サービスの分野におきましても、企業等が情報化投資を抑制した影響を受けるなど、厳しい環境で推移していくものと予想されます。

このような状況の下、当社グループは引き続き、モデリング技術を活用したビジネスを推進してまいりました。

また、システムソリューションの幅を広げていくため、株式会社リミックスポイントとの業務提携を実施し、同社が保有するデジタル画像、映像に関連する処理技術等を学び、当社のソリューションの一部とすべく企画開発を行っていき準備を進めてまいりました。

リアルエステート事業におきましては、仲介及び不動産再販で固定費を補い、利益確保のために大型不動産仲介案件の成約を目指す活動を行ってまいりました。

しかしながら、当第2四半期連結累計期間におきましては、黒字化に向けたビジネスモデルの構築について議論を続け行動してまいりましたが、費用を補えるだけの収益を確保することができず、売上高 67,561 千円(前年同期比 18.4%減)となりました。利益面におきましては、継続して販売管理費の圧縮に努めたものの営業損失 35,788 千円(前年同期は営業損失 96,702 千円)、経常損失 35,788 千円(前年同期は経常損失 97,544 千円)、四半期純損失 45,658 千円(前年同期は四半期純損失 114,648 千円)となりました。

(BT事業)

BT事業におきましては、モデリング技術及び自社ネットワーク製品等を活用したシステム開発サービスの受注活動を継続して行うと共に、OMG 認定資格試験の国内受験者数の減少に歯止めをかけるべく、キャンペーンの実施を行ってまいりました。また、画像、映像に関するソリューションを活用した販売行為を一部開始いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におきましては、売上 49,224 千円(前年同期比 10.6%減) 営業損失 14,174 千円(前年同期は営業損失 39,371 千円)となりました。

(リアルエステート事業)

連結子会社ディーキューブにおきましては仲介及び不動産買取再販で固定費を補い、利益確保のために大型不動産仲介案件の成約を目指す活動をしてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におきましては、売上高 18,337 千円(前年同期比 33.9%減)、営業利益 8,067 千円(前年同期は営業損失 32,329 千円)となりました。今後、同分野に画像、映像に関連するソリューションなどソフトウェアサービスを販売することを目的とした活動を加えてまいります。

以上